

主題名

ふるさとの誇り【Cー(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度】

教材名

「阿賀の御漕船」
(出典 自作教材)

1 主題について

主題観

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の(17)「伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度」を基に設定している。

自分が生まれ育つ郷土は、生きていく上で精神的な支えとして大きな役割を果たす。我が国や郷土の伝統を継承することは、先人の努力により長い歴史を通じて培われていることであり、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術などを大切にし、それらを次代に引き継いでいくことである。郷土の伝統と文化を尊重し、過去から育まれた我が国や郷土の伝統と文化に関心と誇りをもって自己との関わりで考えることは、郷土を愛する心を育み、郷土の伝統と文化を大切にしようとする態度につながっていくと考える。

児童観

本学級の児童の多くは、幼い頃から地域の行事に積極的に参加し、何週間も前から太鼓や笛の練習に取り組むなど、地域の伝統と文化に対する強い関心をもっている。それぞれの地域の自治会も活発に活動しており、地域行事は児童にとって大変身近なものとなっている。多くの児童にとって阿賀小学校区は生まれ育った地域であり、郷土なのである。

しかし、6月に実施した児童質問紙では、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると答えた児童が40%と低かった。これは、感染症予防のため、伝統と文化の担い手として地域行事に参画する機会が減少していることや、地域の伝統と文化を大切にしてきた人々の思いや努力を考えさせる指導が十分にできていないことにより、児童が地域の伝統と文化を自分との関わりで考えることができていないからだと考える。

指導観

本教材は、元禄14年の実話を基にしている。阿賀の御漕船が沈没しそうな御座船を救助したことから、阿賀の人々はそれ以降300年間、厳島神社で行われる管絃祭の御漕船の役目を、様々な困難に立ち向かいながらも受け継いでいるという話である。御漕船の伝統を受け継ぎ守ってきた阿賀の人々の思いや努力を考えることを通して、郷土の伝統と文化について考え、これから自分が郷土のためにできることはないかと考える契機となるようにという願いを込めて作られた自校での自作教材である。

指導に当たっては、児童が地域の伝統と文化を自分との関わりで考え、郷土を愛する心を育み、郷土の伝統と文化を大切にしようとする態度を育てられるように発問を工夫する。

導入では、「伝統を続けるということとは？」という問いを投げかけることで、これまで伝統と文化を受け継ぐ意味をじっくり考える機会のなかった児童に疑問をもたせ、本時を通して郷土の伝統と文化を自分との関わりで考えられるようにする。

展開前段では、登場人物の心情を問う発問を通して、命懸けで行動した喜右衛門たちの働きや御座船を引く役目の大きさ、阿賀の人々の思いに気付かせる。また、なぜ、阿賀の人々は300年もの間、御漕船の役目を続けたのかを問うことで、郷土の一員としての伝統と文化を受け継ぐということについて考えさせ、本時のねらいへ迫らせる。

展開後段では、御漕船がなぜ阿賀の伝統となったのか阿賀の人々の思いや努力について考えさせ、先人たちの守り続けようとする郷土への誇りや郷土を愛する心に気付かせる。また、御漕船の役目を受け継がなかったらどうなるか、本当に受け継ぐことができるのかを考えさせ、受け継ぐ意義と難しさを郷土の伝統と文化を自分との関わりで考えられるようにし、郷土を愛する心を育み、郷土の伝統と文化を大切にしようとする態度を育てられるようにする。

2 本時の展開

(1) 本時のねらい

御漕船の伝統を受け継ぎ守ってきた阿賀の人々の思いや努力について考えることを通して、郷土の伝統と文化に関心と誇りをもつとともに、自己との関わりで考え、郷土を愛する心を育み、郷土の伝統と文化を大切にしようとする態度を養う。

(2) 本時の展開

	学習活動	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 (※評価の観点)
導入	1. 課題意識をもつ。	○なぜ、阿賀の人々は御漕船の伝統を続けてきたのだと思いますか。 ・楽しいから。生きがいだと思う。 ・人々が仲良くなりつながりができるから。 ・なくなったらさみしいから。 ・これまで続けてきたから。	○宮島管絃祭の動画を視聴させ、自分たちが郷土の伝統や文化に関わりながら生きていることに気付かせ、課題意識をもたせる。
伝統を続けるということとは？			
展開前段	2. 「阿賀の御漕船」を読んで話し合う。	○沈没しそうな御座船を見つけたとき、喜右衛門はどう思ったでしょうか。 ・大変だ。急いで助けよう。 ・助けに行ったら自分達も沈没してしまうかもしれない。でも、放っておけない。 ○御漕船の役目を任せられ、阿賀の人々はどのような気持ちだったのでしょうか。 ・うれしい。カッコいい。 ・役目を果たしたい。 ・名誉。阿賀町の誇りだ。 ◎なぜ、阿賀の人々は、300年もの間、御漕船の役目を続けたのでしょうか。 ・これまで阿賀の人々が受け継いできたから。 ・御座船を守る大切な役目だから。 ・喜右衛門や阿賀の人々が大切にしてきた思いを受け継いでいくため。 ・続けないと、これまで大切にしてきた阿賀の人々の誇りが失われてしまう。	○当時の和船や櫓の写真をモニターに映し、大荒れの海での救助が命懸けであることを捉えさせる。 ○児童に発言の理由を問うことで、命懸けで行動した喜右衛門たちの働きや御座船を引く役目の大きさに気付かせる。 ○グループ活動で多様な考え方に触れることで、自分の考えを検討し、本時のねらいへ迫らせる。
展開後段	3. 自分を振り返る。	○みんなは、御漕船の伝統をどうしていきたいですか。 ・阿賀の人々の勇気ややさしさ、カッコいい生き方を伝えていくために受け継ぎたい。 ・大変そうだから自分は受け継ぎたくない。でも、伝統としては残ってほしい。 ・受け継いでいくためにはたくさんの努力が必要になるけど、阿賀で育つ一人として自分にできることを考えていきたい。 ・形は変わっても、喜右衛門や阿賀の人々の思いは伝えていかないといけないと思う。 ・次の人たちにも伝えていきたい。 (○なぜ伝統となったのか。) (○御漕船の役目を受け継がなかったらどうなるか。) (○自分は本当に受け継ぐことができるか。)	○理由を共有することで、伝統を受け継ぐ意義と難しさを郷土と自分との関わりで考えさせる。また、伝統を継承するもしないも、今を生きる自分たちが考えていくべき課題であることに気付かせる。

終末	4. 本時のまとめをする。	○伝統を続けるということについて、思ったことや考えたことを書きましょう。 ・これまで、阿賀の人々の心を受け継ぐなんて考えたことがなかった。これから考えながら生活したい。 ・わたしは、阿賀の人々は、かっこいいなと思いました。難しいかもしれないけれど、その誇りを大切にして、自分にもできることを考え行動したいです。 ・多くの人々の思いや努力によって、阿賀の伝統や文化ができていることが分かった。受け継ぐには色々な問題があるが、受け継ぐための努力を考えていきたい。	※郷土の伝統と文化について、自己との関わりで考えている。(ワークシート) ○自己との関わりで考えさせることで、考えの深まりを自覚させ、自分の生き方につなげさせる。
----	---------------	--	---

3 板書計画

伝統を続けるということとは？

「阿賀の御漕船」

なぜ、阿賀の人々は、300年もの間、御漕船の役目を続けたのでしょうか。

・これまで受け継いできたから。
・御座船を守る大切な役目。
・喜右衛門や阿賀の人々の思いを受け継ぐ。誇り。

御漕船の伝統をどうしていきたいですか。

・勇気ややさしさ、かっこいい生き方を伝えたい。
・大変。努力が必要。でも伝統は残ってほしい。
・阿賀の一員として自分にできること。
・喜右衛門や阿賀の人々の思いは、伝えていかないとけない。
・伝えていきたい。

思ったこと・考えたこと

・これから考えながら生活。「阿賀の人々の心」
・阿賀の人々のかっこよさ。誇り。
・自分にもできることを考え行動する。
・多くの人々の思いや努力↓阿賀の伝統や文化。
・受け継ぐには色々な問題、難しさもある。
・受け継ぐための努力を考えたい。



出典：呉市 HP より (<https://www.city.kure.lg.jp/site/bunkazai/simubun-1.html>)